

28PA-pm420

健康サポート薬局に対する医療福祉スタッフの認知度

○関 美枝子¹, 小林 加奈恵², 富岡 優一¹, 江瀬 麻美³, 鈴木 裕樹¹, 保坂 茂⁴, 前田 守⁵,
長谷川 佳孝⁵, 月岡 良太⁵, 山下 伸樹⁴, 芳川 圭治⁴, 酒井 雅人⁴, 森澤 あずさ⁵,
大石 美也⁵ (¹あさひ調剤わかば薬局本町店, ²あさひ調剤わかば薬局駅前店, ³あさひ調剤わかば薬局白岡店, ⁴あさひ調剤, ⁵インホールディングス)

【目的】超高齢社会の医療を支えるシステムとして、健康サポート薬局の役割は重要である。当社では、地域住民の健康サポート薬局の認知度を調査し、地域住民の健康維持への意識は高いが健康サポート薬局の認知度は低く、その向上に努める必要性を示した(第11回日本薬局学会にて発表)。本研究では、医療福祉スタッフの健康サポート薬局の認知度を調査し、今後のあり方を考察した。【方法】2017年5月に、当薬局が処方箋を応需する医療機関等の医師38名と他スタッフ(看護師、介護士、ケアマネジャー等)77名に紙面でアンケート調査を行った。項目は「健康サポート薬局の認知度」「健康サポート薬局に期待すること」「受診勧奨などでお願ひしたいこと」とし、医師には「保険薬局が市販薬を販売することへの不安」も調査した。【結果】健康サポート薬局の認知度は、医師が34.2%、他スタッフが20.8%であった。健康サポート薬局に期待することは、「医療知識の患者啓発(医師:68.4%、他スタッフ:64.9%)」や「認知症疑いの患者への早期対応(医師:57.9%、他スタッフ:70.1%)」が多かった。「受診勧奨などでお願ひしたいこと」があると回答した割合(医師:15.8%、他スタッフ:22.1%)は少なかったが、患者情報の共有が求められた。「保険薬局が市販薬を販売することへの不安」に23.7%の医師があると回答し、市販薬の使用による受診の遅延を懸念する意見があった。【考察】健康サポート薬局の医療福祉スタッフへの認知度は低いですが、患者への医療情報の発信、認知症患者の早期発見、患者情報の共有など、保険薬剤師が患者の身近な医療者として寄り添うことが期待されていた。薬剤師によるトリアージを不安視する意見もあったが、積極的に医療関係者らとの連携を図り、地域住民の健康増進に貢献できる健康サポート薬局を目指したいと考える。